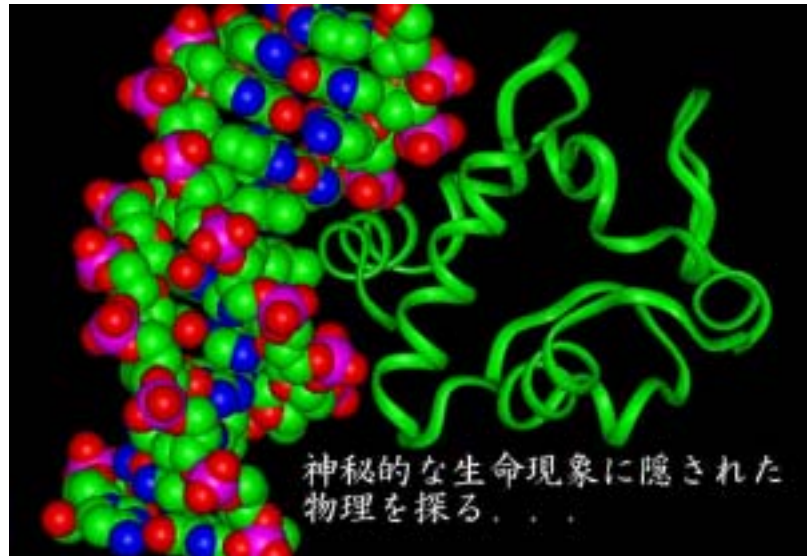


和田昭允東大名誉教授に勲二等瑞宝章



2002年11月3日秋の叙勲において、東大前理学部長である和田昭允名誉教授が勲二等瑞宝章を受章されました。

和田先生は生物物理学において数々の先駆的研究業績を挙げられています。
例えば、

1．溶液中でDNAが2重らせん構造を形成していることを世界で初めて実験的に証明するとともに、その規則構造に微細な安定性の差があることを実証し、この差がDNAの遺伝情報と密接に関係することを示したこと。

2．タンパク質のヘリックス構造が巨大な電気双極子を持つことを世界で初めて示すなど、タンパク質分子の構造や機能における静電ポテンシャルの重要性を理論的・実験的に明らかにしたこと。

3．生命現象の中に隠された物理を発見するために、流動2色性分光器、動的光散乱法、多次元分光器、DNA塩基配列の高速自動解析などの独創的な手法を開発したこと。

等々、枚挙にいとまがありません。

現在、理化学研究所のゲノム科学総合研究センターの所長として、日本のゲノム科学を先導しておられます。和田昭允名誉教授のますますのご活躍をお祈り申し上げます。